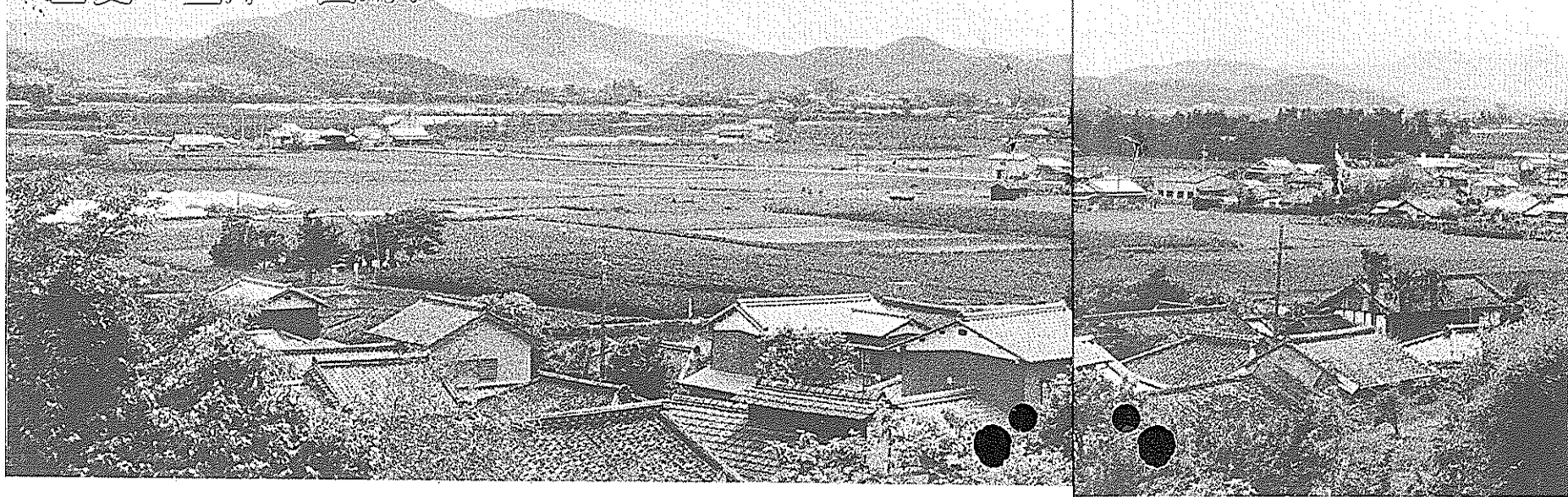


# 歴史の宝庫「国府」



歴史公園の動きを追って

政治・文化  
発祥の地 **県民のふるさと**

## 歴史公園の設置を県に要請

### 古都復元や「歴史の道」も

国府、岡豊地区を中心に県立歴史公園の設置を……。いま、県立歴史公園を南州市へと動きが広がっています。国府地区をとりまく一帯（久礼田、岡豊、長岡）は土佐における先進の平野地帯であり、文化の最も早く及んだ地域です。また古代文化の象徴である古墳も数多く発見されています。そこで南州市は、きわめて早くから古代文化の花を咲かせ、土佐の政治文化の発祥の地であるところから、広く県民のふるさととしての自然の保護につとめ、文化財や民俗資料を守りその活用をはかりつと県に設置を要請しているところ。歴史公園の構想と設置によるいろんな記念行事、文化財保存の意義などを見てみると――。

#### 歴史の

#### 宝庫のゆえん

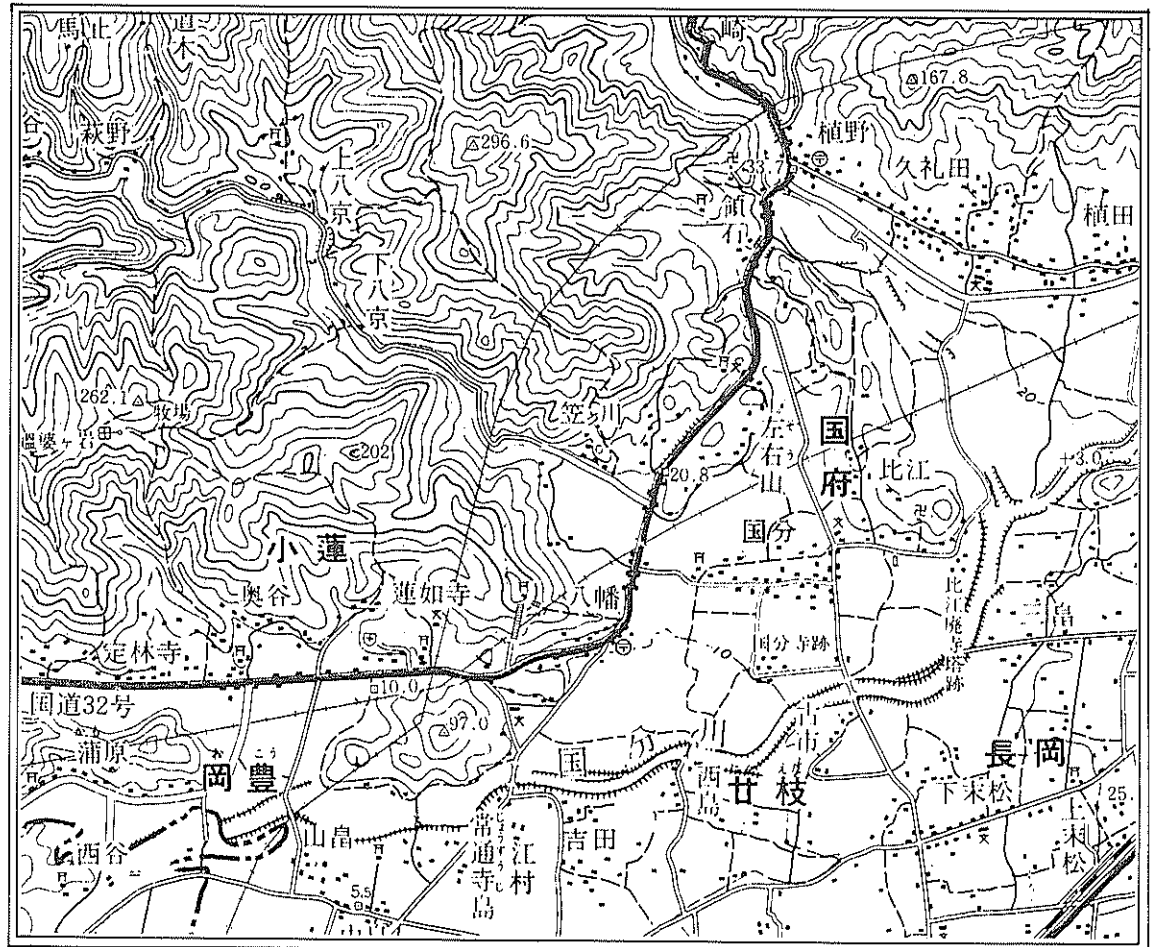
いま、南州市の国府を中心とした「歴史公園」を作ろうという動きが起っています。

県の方では溝淵知事が県下に歴史公園を作りたいという考えを持っており、「それではぜひ南州市へ」というわけで、南州市文化財審議委員会（委員長「北岡博」）が「県立歴史公園についての建議書」を出し、市の方でも「気候、風土

にマッチした個性豊かな田園文化都市」を市のビジョンとしているところから、歴史公園の構想をたてて県に設置を要請しているところ。歴史公園計画の中心となる国府の地は、国府が置かれていたことが紀貫之によって広く知られていますが、いつの頃置かれたのかはつきりしていません。少なくとも、天平十五年（七四三）六月に引田朝臣虫麻呂という人が土佐守に任ぜられた頃から中央から国司が派遣されるようになったといわれています。

そのほか国府には、国分寺、比江庵寺塔跡、比江山史跡などがあります。

天平十一年（七三九）に建てられた国分寺は、当時高知市が浦戸



三和カンランの父、溝淵嘉久馬氏の頌徳碑立つ（昭37.7）

港の海底にあり、国府が位置、環境ともに土佐随一の良地であったところから国府に決められたといわれます。

比江庵寺塔跡には、「郷土の各所から採取された庵寺瓦の年代が

## 歴史公園の構想……

### 文化財を

#### 結ぶ歴史の道

歴史公園の構想は、国衙跡(県指定)を中心に北部の比江山(市指定)西へ国分寺(国指定)、岡豊城址(県指定)と土佐三大古墳の一つといわれる岡豊町小連の蓮加寺古墳などを点として広域にわたるものです。そしてこれらを結ぶルートとして、歴史の道として遊歩道、またはサイクリング道路で結び、隣接の土佐山田町、高知市とも歴史の結びつきによるサイクリング道路、観光道路の整備をすすめる、というものです。

国衙跡は、歴史公園の主体となるもので、発掘をしてできるかぎり完全にその旧態を復元する。そして付近に、「憩いの広場」などをつくる。しかし現在は肥沃な田であり、個人所有の財産であるため全壊を買取することは経費の面

ら推定してそこには国分寺以前もつと古く、その頃としては驚くべき規模の寺があった。(国府村史)といわれます。

また、比江山も史跡が多いこと

農業経営などから考えて多くの問題があり、当面は最も重要と思われる所を買い取って保存する。候補地の発掘調査は、地域住民の理解と協力を得る。

#### 調査・発掘

##### そして保存

比江山は、現在運動公園として認定をうけ、市開発公社がその大半を買取したが未買取地の中に比

## 運動公園とも併設

こうした歴史公園の設置を中心に、基本構想には次のような計画も盛り込まれています。

▼歴史公園と比江山の運動公園の併設。そして高知県都市対抗野球の定着。

▼発掘による出土品と現在出土している文化財、民俗資料の展示の

千有余年の歴史をもつ史跡の数々によって、古来より国のまほろば土佐のふるさととして国府の地が広く知られています。

江山城址のある「シロ山」があるので早急に買取る必要がある。また、自然保護、文化財保存の意味から、できる限り現状のままを残すべきですが、開発に先だって徹底的な調査をして重要な部分は保存し最少限の開発にとどめる。

国分寺の周辺も相当数の埋蔵文化財があると思われるので逐次発掘調査をして保存に努めるとともに岡豊城址、小連古墳などの保護強化に努める。

ための博物館建設。

#### 牛車行列など

##### 冬の祭り

▼紀貫之記念行事。毎年十二月二十一日(紀貫之が京都に帰る比江出立の日)を高知市春のお城祭り、

夏(よまこい祭り)とならぶ南国市の「冬の祭り」とする。「冬の祭り」は当時の風俗、旅の模様を史実にもつて再現する。(牛車などによる行列など)

## さらに完全な計画に

歴史公園の計画推進についてはその重要性から見て、市の行政機構の充実をはかる必要がある。田園文化都市の実現をめざす南国市として文化振興課などの独立した

機構の検討もすすめる。本年度はさしあたって歴史公園設置のための委員会を作り、ただちに研究に入り比江地区の測量なども実施したい。なお本計画の作成は、さら

## 田村も含めた計画に

大化の改新以後、各国に国衙

がおかれ、国府が設置され、国司が赴任するようになったが、国衙がおかれたのは南国市の比江であり、それより、奈良・平安・鎌倉・吉野・室町と、政治の中心はだいたい比江であった。しかし鎌倉時代になって、武家政治が行われると、各地に守護・地頭がおかれるようになった。土佐においても、室町時代に守護代がおかれたのが田村の地で、それより約一世紀半にわたって、この地が政治の中心と

市文化財審議委員 利岡富次

更には戦国時代になって、土佐を平定した長宗我部元親は、岡豊の城主であったので、政治の中心は岡豊に移った。後元親は、城を大高坂に移したのであるが、それまでの政治の中心は、当南国市であり、南国市が「土佐のふるさと」といわれる所以である。それより更にさかのぼって、今から二千数百年も昔弥生時代には、田村を中心として、弥生時代の土器が数多く発掘されており、この時代すでに、この地を中心に、米

に調査研究のうえ完全な計画書にしたい、としています。大きな構想であるだけに、市民の一人ひとりがそれぞれの立場で検討してもらいたいものです。

作が行われていた証拠も歴然としていて、

このような点を勘案して、南国市文化財審議委員会では、是非歴史公園を建設してもらおうべく建議したことであったが、市がこの点を深く考慮せられて、歴史公園建設に意欲をもやしていただけるのは大賛成である。構想としては、岡豊・国府を中心とされようであるが、更に一步をすすめて、田村・前浜の地も含めた大計画とし、これらを、点と線で結び、中央に文化的なセンターをも建設されて、南国市の顔ばかりでなく、高知県のふるさととして、発足されることを望むものである。

### ☆文化財を守る意味



## 個性のあるまち

### 安らぎのある市民生活

都市化の進展によって郷土意識はうすれ、心ない開発によって自然はこわされ、文化財の滅失、損傷がめだつてきています。

文化庁の調べによると四十八年度に届け出のあった埋蔵文化財の発掘は二千七十四件。これは十年前の四倍強だといわれます。しかもこのうち純粋な学術上の目的で実施した発掘調査はわずか二百八件。大半の一千八百六十六件はいろいろな開発事業で文化庁や教委が行った緊急発掘調査であり、その件数は十年前の九倍近くにふえています。開発ブームに荒された文化財の現状がはつきり見てとれます。

こうした現実を反映して、「ふるさと保存」などの事業を進めるところもふえてきています。

#### 生活と生きた関係

文化財という何やら骨とう品のような感じで私達とは縁遠い気がしますが、文化財保護とは、文化財をガラスケースに入れて保

存することではなく、私たちの毎日の生活と生きた関係をつくらうということなのです。ヨーロッパの都市にゆくと歴史が現代の中に息づき、それが都市の個性となり、市民の生活にも落着きと安らぎを与えているといわれます。それが歴史や文化財と現代社会の生きた関係といえるでしょう。

#### とりまく自然を守る

文化財や歴史的な遺産は日常生活とかけはなれた存在であってはなりません。文化財を地域の個性づくりとして考えた場合、守るべき対象は文化財だけに限りません。文化財をとりまく自然環境を大切にしないことには、文化財はガラスケースに入った学術的な意味しかもたないでしょう。つまり、文化財の保護とは文化財という点を通じて自然環境という面を守る意義もあるのです。

最近では七夕まつりもあまり見られなくなりました。翌朝には、七夕送りといって短冊を飾った竹を川に流したものです。川が汚れて七夕送りがすたれた? いや、七夕の行事がすたれたので川が汚れはじめてたのか?

生活様式の変化と言ってしまうはそれまでだが、生活にかけこんだ伝統の行事を捨てると同時に何か非常に大切なものまで失ったように感じます。「笹の葉さらさら、軒端にゆれる……」子供たちからその歌が消えたとき、子供たちの夢も一つ消えた。

文化財を守ることは単に懐古趣味や郷愁を満足さすというのではない。「スモッグの中でピフテキを食べるより、青空の下でにぎり飯を食べたい」——全国の公害反対運動の中で生まれた言葉です。「本当の文化生活とは何か? その条件は?」という問に対する答えのような気がします。

